

普及活動情勢報告（平成29年7月分）

中央西農業振興センター 高知農業改良普及所

普及所の仕事を見学しました ～養液栽培の基礎講座とインターンシップ～



説明を聞く生産者と中学生

7月7日、春野地域のトマト生産者の圃場にて、養液栽培における基礎講義を実施しました。各肥料養分の働きや、栽培を行うにあたっての注意点を説明し、現在、県で取り組んでいる環境制御技術の紹介をしました。

生産者からは、「栽培技術の進歩とともに、生産者もスキルアップしていく必要がある」と意欲的な意見をいただきました。

また、今回はインターンシップ中の中学生が2名が同行し、生産者と交流しました。農業の現場を肌で感じながら、関心を持って生産者に質問をしていました。

健全な苗の育成のために ～イチゴ現地検討会～



イチゴの苗の状態を観察中

7月11日、JA高知介良苺部の生産者11名を対象にイチゴの育苗期の現地検討会を開催しました。

普及所からは、アリガル酸素混合水の試験結果と今後の管理について説明しました。その後、各農家の育苗ほ場を巡回し、今年の生育について確認しました。また、出席者同士の「太いランナーを取った方がいい」「葉のツヤがあるのは株が元気な証拠」など情報交換を行う機会となりました。

今後も、JAと連携して健全な苗の育成と順調な定植を目指して栽培管理指導をしていきます。

中山間地域の集落営農組織の更なる発展へ向けて ～高知市集落営農塾～



公演を熱心に聞き入り中

7月11日、土佐山公民館で、中山間部の集落営農組織を対象に集落営農塾ステップアップ講座を開催し、農家や関係機関合計17名が参加しました。農山村地域経済研究所所長の楠本雅弘先生から「高齢化、人口減少時代も集落営農で大丈夫!」という題名でご講演を頂き、その後、参加者から組織の活動状況と課題の発表し、先生に助言を頂く意見交換を実施しました。後継者不足への対応や法人化等の質問があり、先生からは法人化のメリット、事例紹介など具体的なアドバイスがありました。「これから法人化について集落で検討していきたい」などの声が聞かれ、関心が高まった様子でした。

女性農業者が土づくりについて勉強しました ～はちきん農業大学～



土壌分析の実演

7月13日、普及所で、女性のための農業講座「はちきん農業大学」（農業基礎講座・土づくり）を開催し、11名の女性が受講しました。まず、普及指導員から肥料の各要素の働きや、作物によって必要な肥料が違うこと、土壌診断の必要性などを説明しました。その後、肥料投入量の計算や土のpHやECの測定の実習も行いました。参加者からは「女性ばかりの講座は安心して受けられる」「いつもは夫まかせ、これからは参加、理解していきたい」などと好評でした。

今後も「病害虫の対策」「農業経営の基礎」「環境制御技術」などを企画しており、受講生の資質向上を支援していきます。

今年はちょっと不作かな？ ～ユズ現地検討会開催～



病害虫防除の管理を説明

7月21日、高知市土佐山柚子生産組合が高知市鏡の吉原地区で現地検討会を開催し、組合員や関係者30名が参加しました。

園地状態や樹勢、着果、病害虫発生状況について現地4園を巡回しました。全般的に、着果は不良で、そうか病の発生が目につきましたが、園地状態や樹勢は良好でした。普及所からは、摘果や病害虫防除など今後注意すべき管理方法やドローンによる薬剤防除の取り組みを情報提供しました。

今後も、JAと連携しながら、柚子生産組合の発展のために、栽培管理の指導や最先端の取り組みの情報提供を行っていきます。